

社会科部会

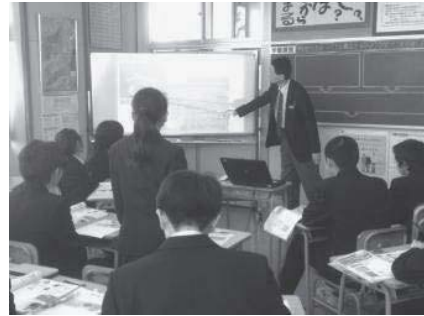
研究主題 社会的事象を自ら追究し、考え、表現し、
進んで社会に参画しようとする生徒の育成

1 主題について

昨年度から言語活動の充実が図られるように、本研究主題を掲げている。今年度もそれを継続し研究を進めてきた。

2 今年度の取り組み

月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成
10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（矢立中学校）



【戦国大名の目指した国づくりは？】

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月29日（水） ・会 場 矢立中学校
- ・単元名 1年 東アジア世界との関わりと社会の変動 「戦国大名の登場」
- ・授業者 佐藤 紀博

① 授業者から

- ・考えを出し合えるようにするための一つの試みとして座席をV字型に並べ、発言者の顔が見える形で話し合いをさせるようにしている。この学習形態は全校で取り組んでいる。
- ・課題の設定については、じっくりと練ってから進めるべきだった。普段は、①みんなで課題設定をする②課題を解決する情報を収集する③話し合いでまとめると進めている。
- ・「なぜ？」を探す取組を続けている。上級生の書いた「なぜ」を参考にしながらできるようになってきている。みんなで責任をもって解決に取り組んでいけると考えている。
- ・本時は、戦国大名は、領民のことを考え、領国経営をしていたことをつかませたかった。

② 協議

- ・生徒からの「なぜ」を生かして課題作りに取り組んでいる具体例について→南北朝では、天皇が2人いる。なぜ？フビライが日本に手紙をよこした時、北条時宗は断った。なぜ？等。
- ・板書構成について、一番下の段の言葉について→黄色枠がまとめになると思うが、だめ押しの確認の意味で書いた。
- ・今日の学習課題について、学習課題の「いくさに備えた」を外せば「課題追究型」になったのではないかと。 「いくさに備えた」を出した時点で答えが出てしまっている。
- ・「調べる」とは、考える資料を提示した上で、読み取り、分類し、ある考えにたどり着くこと。教科書で調べると、それに気付く間もなく答えにたどり着いてしまう。教科書は調べる資料としては使わない方がよいのではないかと。教科書は検証の場面で使いたい。
- ・「どんな国づくりを目指したのか」という課題であれば、「どんな」が読み取れる資料で、生徒が資料によって解決できるもの、生徒が気付けるものを用意する必要があると思う。一番初めに使われた鎌倉時代と室町時代の城の比較は様々な考えが出された。
- ・分国法の資料から迫ることができたのではないかと。資料に出ている大名は領国の大きな大名である。分かっている資料はそろっていたのではないかと。

- ・「戦国大名は」よりもピンポイントに「誰」を決めて、「誰々はどんな国づくりを目指したのか」または、時代をもっと短く切り取って、「いつはどんな状況だったのか」を考えさせることはできるのではないかと思う。
 - ・学習課題の中の「いくさ」を空欄にすれば、「富国」と「強兵」の両方に気付けたかも。
 - ・生徒同士でコミュニケーションを通して理解していくことを目指している。話し合わせ方、発表のさせ方について指導している。発表のさせ方として「資料を根拠にして」話せばよいと考えている。「資料を見ると……がある」と言えればよいと思う。
 - ・もっと話し合うことができるのではないか。生徒同士のやりとりを見たかった。
 - ・コミュニケーションは双方向であるべき。批判的に話合いに参加させていきたい。
 - ・社会科での話合いは、付け足しの連続になる。「いいと思います」はファジー。話合いには先生の助けも必要なのではないか。
 - ・話合い、話し合う力を伸ばすには、発問と課題の工夫をしていきたい。今日の中で話合いになりそうな場面、発問はないか。二択は盛り上がるが。
 - ・城下町の見取り図を作り、ここは攻められやすい、こうすればよいのではなど。
 - ・支配者として民衆から指示される要因について、武力が必要だが強いだけでいいか。お金のある人、信頼も必要なのでは、など。
 - ・戦国時代はシミュレーションゲームにもなっている。とてもおもしろい。
 - ・話合いをするにあたって一中の「ブルーリボンタイム」は参考になると思う。
- (2) 指導助言（北教育事務所山本出張所 指導主事 佐藤 政彦）
- コミュニケーション活動は有効であったか。最後のまとめ方はよかった。話合いでまとめを作れば理想的である。話合いでまとめていける力のある生徒である。話しすぎをおさえようとして、教師主導になってしまったことが残念である。
 - 問題解決的な学習を取り入れたい。力が足りないのでもうここまでできないという話だったが、力が足りなければこそチャレンジさせたい。この生徒たちをどう育てたいのかを明確にすることが大切。資料については、課題に気付き課題を解決するための根拠となる資料を作る必要がある。
 - リレー式の発言。主体的に進んでいた。一方で、ねらいを達成するためには、意図的な指名も必要。発言の内容はよかった。「どうですか」「何か違う人はいませんか」など意見を繋ぐ話形や付け足しが多くあり、よかった。話題になったが、「いいと思います」で終わるのは残念。コミュニケーション能力を伸ばすことは学級づくりでもある。生徒指導的な機能を生かすことが大切だ。
 - 歴史の大観について。大きく時代の流れをとらえさせるようにしたい。中世は武家政権が広がった時代、応仁の乱以降、地方の武士の力が大きくなったことをどうとらえさせるのか。ここから課題を考えるとよかったのではないか。また、前の時代と比べてどう変化したかで考えるとあまり散らばらずにまとめていけるのではないか。
 - 今後に向けて。子どもたちのよさを生かして授業を構築したい。力のある生徒です。いいところをどう伸ばすか、どうやれば力が付くのかを考えながら、話し合わせてほしい。

4 成果と課題

- (1) 成果
- ・生徒の自力解決を目指すための資料の在り方や提示の仕方、また教科書や資料集の扱い方について意見交換し、使い方について考えを深めることができた。
 - ・コミュニケーション能力を高めるための工夫として、様々な話合いのさせ方があるが、一中の実践も聞きながら考えを深めることができた。
- (2) 課題
- ・課題解決的な学習に取り組む際の「課題の設定」と「話合いの深めさせ方と教師の関わり方」についてはさらなる研究が必要である。